

## どんぐり村の こみ・すぐ通信

令和7年12月10日発行 令和7年度 第18号  
更別村コミュニティ・スクール委員会事務局(教育委員会)

### みんなの学校応援団の活動を紹介(その13)

#### 更小5年 JAさらべつ青年部との食育授業

11月17日(月)に、更別小学校5年生が、JAさらべつ青年部の方々の支援を受けて、9月に合同で収穫したかぼちゃを使っての調理に挑戦しました。作ったものは、「かぼちゃパンケーキ」と「かぼちゃポタージュ」でした。子どもたちは意欲的に取り組み、調理後は、青年部の方々といっしょの会食を楽しみました。JAさらべつ青年部の皆さんには、



今年も、種まき・収穫・調理と、さまざまな場面での農業体験にご協力をしていた  
だきました。

#### 上更小3・4年 認知症サポーター養成講座

12月2日(火)に、上更別小学校3・4年生で、保健福祉課・保健師の藤田さんと社会福祉士の佐々木さん、社会福祉協議会・遠藤さんの3名に来校していただき、「認知症サポーター養成講座」を開きました。

子どもたちは、寸劇「眼鏡はどこに行つた!?」を見せてもらう中で、認知症の人への正しい接し方を具体的に知ることができました。翌週9日(火)には、「福祉の授業」も行われ、「車イス体験」等をして、福祉への理解を一層深めました。



#### 第3回コミュニティ・スクール(CS)委員会開催

子どもたちの自己肯定感を高めるために、大人も自己肯定感を高めようというCS委員会の取組を、学校・家庭・地域に広めるためにはどうしたらよいか?

第3回CS委員会が、11月25日(火)に開催されました。冒頭では、今年度のこれまでの会議や「こみ・すぐ通信」及び各校の地域と連携した教育活動(地域学校協働活動)の内容を、さらに、「みんなの学校応援団」の登録状況についての報告をしました。

今回のCS委員会では、「大人も自己肯定感を高めよ」という取組を学校・家庭・地域へ広めるためにはどうしたらよいかについて熟議しました。その際、次の2つの視点を持って、2人1組で話し合いました。

①この取組の課題は?

②広めるために、CS委員会・学校・PTAはどんな取組をすればよいか。

以下に、熟議で出された考え方や意見の一部を紹介させていただきます。この議題について



では、各校の学校運営協議会でも、委員の皆さんの意見をお伺する予定です。

##### 【課題は何か】

- 頭では分かっていても、「ポジティブ変換」の実践がしにくいところ。
- 子どもと大人の関わりが少ないところ。
- 仕事上では人の評価をする社会である中での取組

##### 【広めるための取組】

- 町内会や行政懇談会で、時間をもらってPRする。
- いろんな大人と子どもが交流することが大切。
- 大人と子どもが交流する機会の充実を図る。
- 自分の弱さや課題等を話し合いながら、その解決のために学ぶことから始める。(相互理解)
- 今回のような、大人自身が自己を振り返る研修の機会を大切にする。
- 良い講師を呼び続ける。